

原発の大規模災害時の緊急対策のひとつとして 「安定ヨウ素剤」備蓄・服用のおすすめ — 甲状腺がん予防のために —

福島原発事故から約3年が経過します。メルトダウンした「汚染格納器」の「除染・廃棄」作業へと長期にわたる危機的状況が続いています。

多くの患者様が、「破損事故の可能性・再爆発の危険性」を懸念されています。

同時に『再爆発・再放射線被ばく時における、ヨウ素剤の準備と服用』について強いご要望があります。当診療所として、それにお応えしたいと思えます。そのうえで、以下の「準備・服用」についての見解をご理解ください。

1 効能・効果 ※厚生労働省 2013年4月30日付
効能・効果として、放射性ヨウ素による甲状腺の内部被ばくの予防・低減のために「日医工」のヨウ化カリウム丸 50mgのみが薬事法上承認されました。しかし、「保険適用」にはなりませんでした。

年齢	経口投与量
新生児	1回あたり 16.3 mg
生後1か月以上～3歳未満	1回あたり 32.5 mg
3歳以上～13歳未満	1回あたり 50 mg
13歳以上	1回あたり 100 mg

2 「ヨウ素剤」の服用は、2次的な・緊急避難的な対応策と考えてます。事故直後に間髪入れずに「避難」すること（できるだけ遠方に、風の方向と直角の方向に）が必要だと考えています。避難前、避難途中に『服用』することで、甲状腺の被ばくを避けられると考えています。事故を起こさないこと・避難することが最優先なのです。

- ①甲状腺に対する内部被ばくの予防には、何よりも「避難」が最も良い方法である事。
- ②「安定ヨウ素剤」の服用は、原発事故発生後できるだけ早期（24時間以内）に行う事。
- ③「安定ヨウ素剤」を内服してから、避難する
- ④「安定ヨウ素剤」は、「備蓄し保存」しておく方法が現実的対応と思われる事。
- ⑤「自費」としての取り扱いとなり、現行の「薬価」に準じた価格でお支払い願いたい事。

以上の事をご理解していただいたうえで、「処方・配布」を責任をもって行います。そして「大規模原発災害時の緊急対策」は、政府・電力会社そのものが、「安定ヨウ素剤の保険診療・処方・備蓄」と、避難計画の完全な立案を、全力で行うことが本来の姿だと思っております。ご不明の点・詳細につきましては当診療所にぜひお問い合わせください。

実施要項

- ①カルテを作成させていただきます。氏名、生年月日の確認できるものをご持参ください。
- ②診察を行い、処方いたします。
- ③直接、診療所で「ヨウ素剤」をお受け取りください。
- ④料金は以下のとおりです。

13歳以上・・・50円 13歳未満・・・30円

ふくしま共同診療所

< 内科医としてできることを >

医学生のと時から核兵器反対の活動はしていました。原発についてはさほど関心がなくチェルノブイリ事故のときも危険だとは思ったものの特に活動はしませんでした。1996年にグリーンピースジャパンのサポーターになり、いかに人体や環境に悪影響を与えるかを知り、原発反対になりました。

そして3.11福島原発事故。痛恨の思いでした。福島に住んでいる人たちのために何か出来ないかと思っていた時に声をかけられ、木曜日を担当しています。私は放射線医でも甲状腺医でも小児科医でもありません。放射線による障害は小児甲状腺がんだけではありません。これからいろいろな健康障害が子どもから高齢者まで起きてくるのが考えられます。一般の診療を通して少しでもお役に立てればと思っております。

ひさくによる **スタッフ**

インタビュー

趣味は **家庭菜園**
年に1、2度オペラ鑑賞にも行きます♪

木曜日担当 **内科医**
平岩 章好 医師

見歩き

一言で言えば、行ってよかったです。来なければ、寄り添うことは不可能と思うからです。けれど、別れ際におかけする言葉が思いつきません。「ありがとうございました」としか、言えません。こちらとしては、「（お付き合い頂き、）ありがとうございました」としか、言えなくて、。60前後の男性の方が、わざわざお部屋に帰って御捨りを届けて下さいました。ご自身も大変でしょうに、。申し訳ないことです、。「元気で」は、過酷な生活環境の方に、言えません。「またね～」も、ずっとこの仮設住宅に縛り付けるよう言えません。ただただ心の中で、「（どうぞお元気で。）」と言うのみなのでした。



えりこさん

さまざまな環境を感じる。空気感を感じる。そりゃそうだ 無理矢理に集まってこさせられたんだもの。それでも ぼくたちにつきあって下さったのかな？子どもさんたち、かじりつきで見てくれたこともさん 興味なしよって感じの思春期はいったこともさんたち・・・平時ならそこでガッツと強烈なことやって振り向いてもらう策をこうじちゃんだけ・・・まだまだ 信頼感が薄いだろうし遠慮しつつの慰問です。ここでまたお会いできない方がいいのだけれど、もし もしも次回訪れたときに お会いできるようなことであれば もうすこしがツツと・・・

だるま森さん



保養

「どうせガンで死ぬだろう」と甲状腺エコー検査を拒否した高校生。彼は、去年の夏休み、長崎の保養に行き、被爆者の方や多くの地元の方と接して、自分の中で何かを変化させて福島に帰ってきました。この春、看護学校に入学し、看護師を目指しています。夏の長崎の保養は、今年も行なわれます。7月27日～31日（詳しくは診療所まで）。

「ここから通信」第2号でも紹介した佐渡の保養施設「へっついの家」。記事の中でも紹介されていた福島の中学生は、念願がなって今春、佐渡の高校に入学することができました。いま、サポートネット佐渡をはじめ、地元の方々のたくさんのご支援を受けて、毎日元気に学校に通っています。以下は、「へっついの家」の福島スタッフ関久雄さんのフェイスブックから。「福島を始め、被ばく地の子どもを放射能から守る活動として2011年の夏から始まった佐渡保養キャンプ。それは、2012年の佐渡保養センター「へっついの家」の開設へとつながりました。・・・ここでは放射能を気にせず泥にまみれ草木に触れて遊べます。外遊びが子どもの成長にとっていかに大切かは言うまでもありません。私たちがわざわざ佐渡に出かけるのは、いま、福島では出来にくくなっている活動を行い、

健康と本来の子供らしさを取り戻すためなのです。その「へっついの家」の事業が危機に瀕しています。現在、多くの心ある方々がこのことを全国に発信してくださり、カンパもお寄せいただいております。

診療所と同じ。福島の子どもの守る、この当たり前の事業を、なんとしても支えようという心あるたくさんの方もいる。保養は、幼い子にも多感な思春期の子にも生きる希望を感じさせてくれる場です。

詳しくは以下のブログとフェイスブックをご参照ください。
福島サポートネット佐渡 <http://saponet-sado.jugem.jp>
福島-佐渡 むすんでひろく保養プロジェクト「佐渡へっついの家」
<https://www.facebook.com/sado.hettsuinoie>



だるま森さんが描かれた「へっついの家」支援を呼びかけるイラスト